

教育ICTの学びによる笑顔を、最前線からレポート！

No.1

# 学校へのタブレット導入の 実態を現場の先生に聞く

同志社中学校 反田任先生



# デバイスは壊れるもの 故障への備えは必要だと思います

2014年から、生徒1人1台タブレットを導入している同志社中学校の反田任先生に、タブレット導入のきっかけや、タブレットを活用するための学習環境の整備、授業についてお話を伺いました。



反田 任 先生 (たんだ たかし)  
同志社中学校教諭(英語科)。EdTech Promotions Manager。同校におけるタブレット導入を推進し、Wi-Fiネットワークや学習ポータルサイトの構築・運用なども担当している。

**タブレット導入の目的は何でしたか。**

タブレットを使うことで、具体的に学べる環境と、一人ひとりに応じた学びを実現していきたいという思いで導入しました。**長く学習で活用するため、気をつけていることはありますか。**

今は全校生徒がどの教科でも使っています。当初、共用というかたちでタブレットを導入した際は、タブレットをカートに入れて教室移動していたのでそれほど気にならなかったのですが、各家庭で購入していただき生徒が各自持ち運ぶようになってからは、教室や校舎間の移動時に落として破損してしまったり、鞆の中の水筒の水漏れで故障したりというようなことが起こっています。そこで、保護者の方にお願ひして、保護ケースをつけてもらっています。故障は、多い生徒で3年間に3回ほど

でしようか。大事に使って一度も故障させない生徒もいます。**タブレット補償サービス「Dr. たもつくん」(詳細は下記導入の決め手は?)**

補償期間中の修理回数に制限がないこと、個人の修理費用負担が生じない(免責0円)ということが大きかったですね。1人1台所有の現状では、使用状況によって費用負担が変わってしまいます。以前導入していたサービスでは、複数回修理を依頼した生徒に、数千円の費用負担が必要になったということがありました。それと比較して「Dr. たもつくん」は納得できる金額と補償内容でした。本校では3年補償の契約なのですが、もし故障で買い替えになったら何万円とかかってしまうのが、その数分の1の金額で、期間中の修理費用を負担しなくてよいという。これによって、生徒がタブレットの故障を気にせず、思い切り使えるようになったというのがあります。

デバイスはどうしても壊れる可能性があるものなので、それに備えておくことは必要だと思っています。


**「Dr. たもつくん」を導入した結果はどうでしょう。**

画面がバリバリに割れてしまっていたのに、まっさらになつて返ってきて、生徒が非常に感動していたのがとても印象的でした。本校生徒のタブレット故障については、ほぼ補償を適用していただいているんじゃないですかね。補償対象外で修理できないというケースはなかったと記憶しています。十分なサポートを受けられているなという実感があります。

**タブレット活用で感じている成果と今後めざしていることを教えてください。**

タブレットのおかげで、プレゼンテーションを行うことが身近になったこともあり、発信していく機会が多くなり、自分の考えや学びをまとめていく力やそれらをアウトプットする力が向上したと思います。今後は課題解決の能力を身につけてほしいです。さらには、ICTを活用して生涯を通じて学べる学習者となつてほしいですね。

**こんな試みも!** **印象に残った 中学英語×ICTは!?**



クローズドのSNSを活用して、本校生徒の将来の英語原稿を高校生に添削してもらった授業が印象深かったですね。大阪の公立高校にお願いし、本校の生徒と高校生が1対1のペアになってスピーチ原稿を完成させました。見ず知らず同士ということが、かえって個人的相談をしやすくする効果があったようで、とても盛り上がりました。まさにICTの活用で、実現した授業ですね。

**導入いただいている商品**

**Dr. たもつくん™**

タブレット補償サービス

- 修理回数 無制限
- 免責 0円
- 落下・水濡れ 破損も補償
- 最長 6年

タブレット導入後、先生や児童生徒がトラブルの不安なく安心して活用できる、強力な補償サービスです。修理回数無制限・免責0円で、学校で起こりやすい落下や水濡れトラブルも補償します。※端末本体のハードウェア故障に起因して、正常に動作しない場合に補償対象となります。